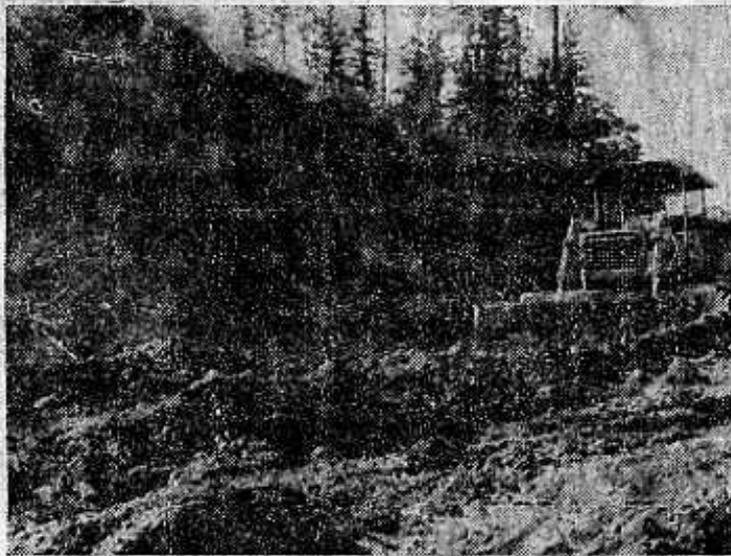


筑波の古墳群 蒸発

学園都市の建設で

【文京】東京の都市化対策として計画された筑波研究学園都市の建設で、圓明にある百鬼、城跡、集落跡などの貴重な遺跡が、学園都市の名にちなんで次々破壊されている。同地一帯は縄文時代から栄え、現在でも古代史を繰る多くの出土品が発見され、考古学者にとりては埋蔵文化財の宝庫。ところが学園都市の幹線道路として建設が進められている環道、土師、志麻原などの遺跡事のため、これまでに、所々の古墳群が破壊され、もう一つの城跡も風前の灯である。

“花室城跡”も風前の灯



学園都市建設工事のためブルドーザーでえぐり取られた茨城古墳(後方、木が立っている付近が前方後円墳であったと見られる)

茨波山ろくから圓明常磐線が、江の広大な敷地——その住宅地公団の手で用地買収が九分とあり、残りの用地は、同敷地を東西に貫く都府道、環道、土師、志麻原、南北を走る学園東大通り線の建設工事が急ピッチで進んでいる。四十一年から始まった土師、志麻原の工事は一先、土師市西側の茨城町にまで進んだ。ところが、同町西側は無数の古墳が点在し、四十六歳の発音がなまって穴塚(しつ)か)になったといわれると云う。

このため地元民が、大日山、と野木岡、土師市役所跡、砂田元さん、と所有の古墳群は、山岳林がブルドーザーで深くえぐり取られ、大小二つの前方後円墳と一つの円墳が形もなくなり、美しい松も次々と倒された。

が出土した。

またこの古墳群から約一・五キロ離れた同町新田村花室にある同所、農業、宮本義明さん(住所)の「花室城跡」も同路建設予定地にあって破壊寸前。同城跡は、小高い丘にあり、鎌倉時代末期から室町時代初期に形成されたものといわれ現在、アドウ、クリの果樹園になっているもの、木丸跡

12/4日



や、ドンドン、と壊される物見「と」に驚愕しに抗議した。やぐら跡、内堀、外堀跡など示されている。

宮本さんは花室、古来、古墳の同村三地区約百二十戸で核村学園建設対策委員会(飯島正義委員長)を組織し、城跡のある丘をくすすす、下にトンネルを通してもらいたい」と主張、常磐台地研究会(諸原政博会長)も「花室城跡は中世の城跡研究上、きわめて価値の高い全国的にも数少ない遺跡だ。開発の勢いに押されて貴重な遺跡を安易に破壊するのは許せな

しかし、土師市は今年度中に用地買収を終わし、来年度末にも着工、強制的に締まる構えのため、学園建設対策委は十二月四日「価格を引上げ、買収対策を取入れる」との要請書を提出、買収に応じる姿勢を見せ、中世の歴史社会の姿をとどめる貴重な城跡は消え去る運命にある。

一方、土師、志麻原とは別に、筑波研究学園から同町谷田部町に抜ける延長十八・四キロの学園東大通り線の建設も昨年からはじめら

れ、工事中に筑波山木山の地点に古墳時代前期と推定される前方後円墳が発見された。同朝のものには珍しいガラス製土師(くた)たまた六個と鉄製土師(くた)出土したが、調査後には埋没され、いまでは道路となっている。

また、この地点から約一キロ、谷田部町寄りの大塚町地区には多くの縄文式土師や石皿が発見され、埋没跡として貴重な「佐原遺跡」があるが、道路にひびかりそう。

土師市は、さらに筑波研究学園都市敷地内の茨城町、大塚町、豊田町、谷田部町、後村、某町村の大町村を総の目のように走る四本の都市計画道路を五十二年年度までに完成させる計画を進めているほか、池田宮公茂、四柳などの建設計画も目白押し。

十一月六日、学園都市の合同起工式を行い、林野廳の抽出にハッパをかけたばかりの同業は一少しても早く学園都市を完成しなればと熱意だが、こうした「急ぎ足」のかけに文化財の保護設備は、なごめられた形で、西宮学園の水の池で、筑波を「の山が目」とに描き込んでいる。